

秀岳館球児

躍動

3月20日(日)に開幕した「第88回選抜高校野球大会」。九州代表として出場した地元・秀岳館は持ち前の長打力と安定した投手陣の活躍でベスト4を納めました。

1回戦は大会屈指の左腕、花咲徳栄(埼玉)の高橋昂投手を、対応力を高めるノーステップ打法で攻略。中盤までに6点を奪い試合の主導権を握り、終盤1点差に詰め寄られるも、投手陣の粘りのピッチングでリードを守り切りました。

続く2回戦は南陽工業(山口)と対戦。初回、相手守備の失策も絡み8点を先制すると、その後も攻撃の手を緩めることなく、3本塁打を含む18安打16得点で大勝しました。

準々決勝は木更津総合(千葉)と激突。4回に1点を先制され、自慢の打線も8回まで2安打に抑え込まれました。しかし、9回、廣部就平選手が右前に同点適時打を放つと、続く堀江航平選手が中越えにサヨナラ2塁打を放ち、秀岳館は春夏通じて初のベスト4進出を決めました。

そして準決勝では、秋の神宮大会で優勝した高松商業(香川)と対戦。相手投手の変化球に苦戦しながらも終盤同点に追いつき延長戦に突入。延長11回にピンチを招くと、2連打を浴びて2点を失い、2対4で惜敗しました。

決勝進出はなりませんでしたが、目標の「全国制覇」に向け、確かな一歩を踏み出しました。

また、関西熊本県人会の人たちが、出身校に関係なく、毎回多くの人たちが駆けつけ、秀岳館ナインに熱い声援を送りました。

